

# 笑ってごらん

第 543 号 (卒業おめでとう号) H. 28. 3. 1 発行

～今日のことば～

感動は人を変える。笑いは人を潤す。

夢は人を豊かにする。

月刊『致知』編集長：藤尾秀昭

◇◆卒業おめでとう!! 鳳凰高校での3年間または5年間、お疲れ様。卒業生の皆さんにとってどんな年月だっただろうか? 在学中は楽しいことばかりでは無かったはず。どちらかといえば、辛く苦しいことの思い出の方が多かったことだろう。個人的なことで申し訳ないが、もう35年経ってしまった高校時代を振り返ってみると、楽しかった出来事も確かに覚えてはいるものの、その場の状況や人物などについてはとてもおぼろげになってしまっている。だが、自分自身一生懸命頑張ったことや、窮地に立たされ二進も三進も行かなくなったことなどについてはほぼハッキリ記憶に残っている。近年、同窓



会で懐かし話をすると、友人も同様な反応を示す。そういう狭い情報に頼って強引グマイウェイな理論を振りかざしてしまえば、「辛かった経験こそ大切にしてください」と言いたい。「楽しいこと」はその瞬間テンションが上がり、興奮し、とても嬉しい気持ちになれる。ただ、感情が満足するだけの状態ゆえ、一時的な満足で終わってしまう。一方、「辛いこと」に直面すると、人間は「どうすれば解決できるだろうか?」と悩み苦しみながらも考える。頭を使う。一人で対処出来ないようなら、他人に相談し知恵を借りる。その期間は瞬間的なものではなく、ある程度長期に渡るもの。ゆえに、しばらく頭を使う分だけ鮮明に記憶される。楽しいことと比べると、長い時間をかけた上での満足である。そして、それが貴重な経験となり、その後の人生において同様な事象に出会った際、「ああ、あの時はこんな対処をしたな…」と思い出すことができる。これは大きな武器となる。在学中、腹を立てたり、困ってしまったったりした時、振り返ってみれば、耐え忍んだり、問題解決に導いたり、何らかの対処をしたはずである。その過程であなたの経験値は格段に成長している。『難来れることを以って幸いとすべし』……私が学生時代に出会った方の座右の銘である。未だに耳に残っており、私自身の教訓になっている。ただ、この言葉を思い出すことが多いということは、窮地に立たされた時に「逃げ出したい」思いに苛まれるからであり、「自分はまだまだ成長が足りないな…」と思うのである。 ◆縁あって2/27に寮監代行業務(当直)に携わることができた。夜、フロアに全員集合し、予餞会が行われた。学校の予餞会とは異なり、部屋の下級生が卒業する先輩へメッセージを贈る感動的な場面を見せてもらった。寮生はお互い部屋のメンバーを選ぶことは出来ない。後輩は「どんな先輩かな?怖くないかな?」など思い、対する先輩も「どんな後輩かな?うまくやっっていけるかな?」など気を揉んでいたはず。しばらくする内に互いの性格もわかり、打ち解け合える。途中、「これは言い聞かせてた方がいいかな?でも、気まずくなりたくないな。自分も出来てない所も多いし…」といった場面も経験したことと思う。先輩・後輩という間柄での数多くの経験が、別れの時の涙に繋がっているのだと思った。私自身、35年以上も前のことではあるが、下宿生活での先輩との別れを思い出すことだった。 ◆卒業生諸君、今後、一見難儀なことに出逢ったとしても、最初から避けて通ってはいけない。悩み苦しんだ末に得られるものはとても大きい。自分の中に秘められた可能性を見出し、開花させ、大きく育てることを繰り返して欲しい。加えて、自分自身のことは好きであり続けて欲しい。共に時間を共有した仲間を大切にしたい。これからの皆さんが、大きな志を胸に抱き、一步一步確かな歩みを重ねることを祈念する。皆さんの今後に幸あれ!!